

河曲地区地域づくり協議会

広報 かわの

令和7年9月20日 第22号

フィンランド発祥 新スポーツ競技

『モルック』で競う

放課後子ども教室の1.2年児童たち

モルックとはどんな団体スポーツ？

モルックとは、フィンランドのカレリヤ地方で親しまれていた「kyykka」という伝統的なゲームから生まれた団体スポーツ競技です。

3.5メートル先にセットされた木製の12本のスキットル(1点から12点まで固有点数を持ち、写真のように配置)を、モルックと云う円筒棒を下手投げで投擲(とうてき)し、倒れたスキットルの固有点、又は本数を積算していきます。

各チーム2～5名で順番に投擲し、真っ先に合計50点ピッタリになったチームが勝ちです。平らな場所があれば野外でも屋内でも楽しめます。

初めてのモルック体験

7月9日、公民館2階ホールで児童達には初めての競技会が行なわれました。用具は本来の木製ではなくて、写真の通りフロアが傷まないようスポンジ製のカラフルな子供用でした。

この競技の要は、一投擲で12本のうち、例えば7番スキットルのみを倒せばその固有点の7点が得点になりますが、一投擲で複数のスキットルを倒してしまうと倒れた本数分しか得点にならないことです。例えば3本倒れたら3点。

もう一つの要は、スキットルは倒れた場所に置かれることです。下の写真の左が第一投擲、右が



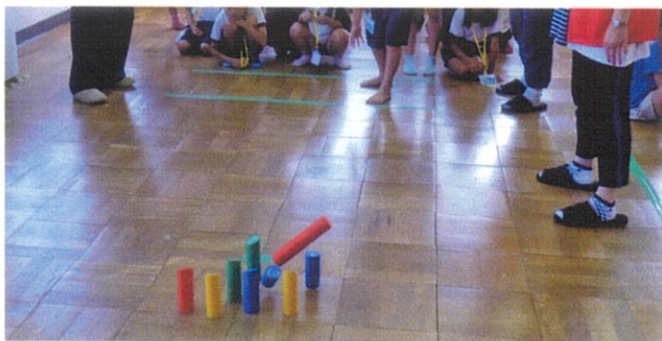
試合進行に伴いスキットルが散らばって、そこで投擲した様子、従って倒すのが難しくなります。

更にゲーム終盤になって他チームより早く一投擲で合計ピッタリ50点、となれば勝ちですが、51点以上になるとそれ迄の積み上げ点は抹消されて、25点目に戻されるルールがあります。これがこの競技の戦略的な面白みの源泉です。その他、世界選手権大会にも対応する厳密なルールが幾つありますがここでは省略します。

認知度の高まりを

児童たちは最初、ルールに戸惑っていましたが慣れて50点までの計算に目途が立つと俄然応援の声が大きくなりました。ボーリングに似たスキットル倒し、ボッチャに似た狙い、カーリングに似た先読み、など5人で作戦をそれなりに練っているチームもありました。

この競技の河曲導入に尽力されている公民館の主事さんによれば、河曲での競技認知度の高まりを今後とも期待しています、とのこと。



野辺・竹野地区の児童向け

通学路を改修

地域づくり関係者の奉仕作業

歩きやすい通学路に 野辺・竹野地区から河田を通して河曲小学校への通学路のうち、ネックになっていたブロック積み箇所が、当該地の地権者と使用者各位の学校教育への御理解と御厚意により、また地域づくり関係者による奉仕作業により歩きやすい通学路に改修されました。

昼食抜きで3時間 7月19日、地域づくり協議会の定例事業である草刈りを39人で10時に終えたあと、11時から野辺・竹野の関係者を軸に役員等10名がブロック除去工事に掛りました。

昼食抜きで前後3時間に及んだ作業の結果、現場は下の「before」から次頁下の「after 1,2」に姿を変えました。以下、その通学路改修作業の経過を時系列で見っていきます。



before ローソン河田店の東南端附近

改修前、児童たちは写真奥から青信号で白線横断歩道を渡り、手前の歩道に至り、ローソンの敷地を区切るコンクリブロックの前で左に折れ、鋭角に右に折れ、再度ブロックと車止めのあるローソン東道に沿って登校していました。

改修現場は狭い三角地です。手前の山形ブロックは押せば除けそう、残りも二段積み。ということから、今回の10人のうち唯一人のプロで、重機・機材を全て持ち出して頂いた竹野町の山際総代の段取りでは、まあ1時間もあればOK、施工が頑丈すぎて手こずると3時間、とのことでした。

まず山形ブロックは埋め置きだったことから簡単に処理できました。萩会長も計算通りの1時間工事で上がり、と読んでいるようでした①。

数年来この通学路問題に奔走し、河田町木林総代のご助力のもと、萩会長と連携してここまで漕ぎつけた遠藤総代会々長も、運転台の山際総代を支えての交通整理には笑顔がありました②。



が、県道に沿った歩道の二段積ブロック壊しになって事情が変わりました。並みのブロックなら大型ハンマーで叩けば壊れますが、ここのは強固なブロックで、且つ鉄筋が縦に1本、横に2本埋め込まれた頑丈な境界壁でした。

まず、露出してくる鉄筋はユンボで引っ張り出してカッターで切り取ります。それには作業効率を高めるため、ドリルでコンクリ部分を削り取るのが本筋。これには共にアマの北川参与③と松本防犯委員長④が交代で担当されました。





15ミリの鉄筋2本の切断は、白塚山参与が担当されました。グラインダーの向きが変わる度に火の粉が手前に飛んできます。その結果としての火傷も念頭に置いた上の申し出でした⑤。



鉄筋の処理が済むと作業は順調に進みました。ユンボで下積みブロックまで取り除き、出来た溝には砂利の代わりに現場で生じたブロック破片を敷き詰めます。次いでその上をコンパクターで押し固め、その上に整地用の黒いレミファルト（アスファルト）8袋分を盛り盛りに播きます⑥。

最後、仕上げとして段差のないよう丁寧に再度レミファルトを押し固めます。コンタクターの傍らでは、全体の固化を早めるため、野辺の原田総代と河田の木林総代が散水してみえます⑦。新通学路のグリーンベルト塗装は近日中の予定です。



after-1 横断歩道を渡りローソン角地に向かう



改修後、写真after-1のとおり、野辺・竹野の児童たちは用水路に沿って東進して来て緑色シート付近で信号待ちして、青になったら県道をわたります。前方にあった障害と見えていたブロックは除かれており、渡って左折すればローソン沿いに小学校正門に至ります。

振り返ると写真after-2のとおり、ローソン店のご了解により改修可能になった東南端の現場が見えます。ここが改修されたことにより、横断歩道をまっすぐ来れば学校正門前の道に出ます。

炎天下、3時間に及んだ交通指導の田中副会長はじめ皆さん、お疲れ様でした⑧。



after-2 ローソン河田店の東南端三角地

野辺神明神社の奇祭

湯立て神楽

(通称・湯のはな神事)

湯立て神楽(通称：湯のはな神事)について

江戸時代から野辺町に伝わる「湯立て神楽(通称・湯のはな神事)」は、毎年10月の三連休(今年は10月12日)に、野辺神明神社秋祭りのメイン行事として催行されており、町内の皆さんを始め、写真家など、沢山の方々が集まる「勇壮な神事」として親しまれています(本紙8頁に関連記事)。

この湯のはな神事は、神職からお祓いを受けたあと、神子(かみこ)と呼ばれる町内で選ばれたひとりの若者が、白装束をまとい、大釜で沸かした熱湯の中に笹の束を浸し、それを参詣人に勢いよく振りかけて無病息災を祈るものです。神子はこの祭典中、神職の次の上席の位となります。

神職については江戸時代の元禄11年(1698)、野辺村の松尾という人物がその任にありました。住いは、神明(伊勢神宮)春日(大社)八幡(宇佐神宮)等3座を祀るお社の隣にありました。安政2年(1855)の文書には「神主松尾氏」との記録も残っています。文久元年(1861)の御社御造営にあたっては松尾石見守愛胤神主が尽力され、明治はじめまでの職を代々継承されてみえました。



ここまでは、もしかすると他の神社でも同様な神事が行われているかもしれません。例えば須賀には天明8年(1788)8月製、径2尺の湯の華神事用の湯釜が残っています。

この点、野辺の「湯のはな神事」が奇祭たる所以は、この神子が、笛・太鼓の調子(神楽)に合わせて境内を走り回りながら、何回も何回も、参詣人に笹の束で熱湯をかけまわることなのです。

表現が良くないかもしれませんが、「暴れまくって熱湯をかける」そんな感じです。

そして、神子が疲れて、大釜の前で、膝まづき、うつぶせになると、今度は町内の10数名の若い男衆が、その神子の上に次々に乗りかかり、まるで「人間タワー」のようになります。高く高く若者たちが乗り重なっていく姿は、圧巻であります。一説では、暴れている神子を落ち着かせる意味もあるとか。

そこから回復した神子は、その集団を取り払い、再び笛・太鼓に合わせて、境内を走り回りながら熱湯をかける。これらの所作を数回行い、最後は、神子が境内の中央で、笹の束を天に向かって投げて終了となります。

この笹を参詣人が、我先にと競って奪い合います。昔は、この笹を牛に食べさせて、病気を防いだとも伝えられています。

牛といえば、野辺村は亀山藩86ヶ村の一つで元禄15年(1702)には馬2疋、牛23疋を飼いつつ57戸283人が田43町6反7畝、畑8町7反2畝の地を耕していました。当時は米が命の農業でしたので牛馬は大切でした。宝永5年(1708)には亀山藩を統括した12人の大庄屋のひとり、羽木(萩)五郎兵衛が倅の甚兵衛に役務委譲しています。

因みに隣の竹野村は延享元年(1744)、田21町6反2畝、畑4町7反1畝を40戸178人が馬1疋、牛

9疋で耕していました。須賀村では寛延4年(1751)に農地59町2反、110戸で馬5疋に牛16疋。幕末の十宮村では農家51戸に牛11疋がいました。

私たち野辺町では、この「湯のはな神事」を地域に伝わる大切な伝統行事として、これからも長く守り続けていきたいと考えています。

(文 地域づくり協議会参与・白塚山隆彦)



河曲地区自治会総代会 定例研修 名古屋市港防災センター 災害体験で学ぶ

名古屋市港防災センターで研修

令和7年7月5日、河曲地区自治会総代会の委員20名が定例研修事業の一環として名古屋市港区役所に置かれている「名古屋市港防災センター」を訪問し、その知見を広めてきました。

港防災センターは、災害について「見て、学んで、体験することで、いざというときに備え、何をなすべきかを知る」ことができるよう設けられた名古屋市の研修施設です。

三つの災害体験

まず、「地震体験室」に入って「過去に起こった震度7クラスの地震を起動装置で体験しながら、適切な初期行動」について学びました。上下左右に激しく揺すぶられ、机の下に至らず、その場でしゃがむのが精一杯でした。

ついで「3Dシアター」に回り、映像、音響、照明などの演出により、伊勢湾台風や津波などの自然災害の恐ろしさを学びました。昭和34年9月26日の伊勢湾台風は、その頃の小学1年生にも鮮明な記憶として刻み込まれている未曾有の災害事象ですが、今回見た映像のうち、貯木場から寄せ来る流木の迫力には驚きました。

煙避難体験室では、「火災発生状況の中、煙の特性を理解し、的確な判断に基づく避難姿勢や避難方法」を学びました。キャラメルを焦がしたような異臭のある煙の中、服袖やハンカチで目鼻を護りながら低姿勢歩行で進みなさい、と言われても容易ではありません。

自分事として考えると

1. 避難訓練はこれから夜間とか、いろんな状況下で行ってもよい。
2. 災害は構えて迎えられ



港防災センター地震体験室で R7.7.5

ない。実際に遭遇した時、パニックに陥り、冷静な行動など難しい。むしろ出来ないと前提して、事前に準備できることはすべて行っておくことが有益な対処法ではないか。

3. 訓練で簡易トイレなど参加記念として渡される場合があるが、それは仕舞い込まず、先ず一度、使用体験しておくことが肝要。

4. 昨年は京都の防災センターで研修した。施設設備は名古屋市港防災センターとほぼ同様だった。共に学び易い施設で、次の行動に活かそう。

鉄道博物館を見学

帰路、「リニア・鉄道館」に立ち寄りしました。マニアのみならず茶の間でも話題の、間もなく引退する「ドクター・イエロー」を至近距離で見してきました。また精巧な鉄道模型で構成された大きなジオラマには魅せられました。



旧体育館取壊し完了 校庭拡大 令和7年7月



うちわ作り

放課後こども教室活動
7月23日午前中
みんな集中



元気に朝のラジオ体操

7月26日 8月2日

連日の熱中症警戒アラートのなか、令和7年夏の学校運営協議会主催、地域づくり協議会共催ラジオ体操は、初回285名、二回目262名の参加があり、終了後のビンゴ大会では二日でメロン30個の大盤振舞など、皆さん元気でした。



河曲地区体育委員会主催 前半4大会 競技成績

インディアカ大会 5/11 神中体育館

男子優勝・国分A 2位・野辺A 3位・須賀A
3位・国分S

女子優勝・須賀 2位・河田A 3位・国分A
3位・国分B

卓球大会 6/15 神中体育館

優勝・宮の前 2位・大谷 3位・西十宮
3位・竹野



一般女子ソフトバレーボール大会 6/15 神中体育館

優勝・国分 2位・十宮B 3位・山辺B
3位・西十宮B

ファミリーバドミントン大会 7/6 河小体育館

優勝・竹野 2位・山辺B 3位・須賀
3位・木田A

地域づくり協議会定例事業

令和7年7月19日 参加者39名

博物館広場・河曲小・神戸中 区域内草刈



地域づくり協議会関連人事

令和7年3月31日付 松永裕道

河曲地区パトロール隊長離任

令和7年4月1日付 是枝徳義

河曲地区パトロール隊長就任

令和7年6月1日付 小山友美

河曲公民館主事補就任

地域の災害支援体制

8月22日、河曲地区の災害支援等でお世話になっている地域包括支援センター主催で、「災害時の地域連携」に係る会議がありました。

鈴鹿市の場合、市全域は行政サービスの円滑化のため8分割されていて、河曲地区は隣の神戸地区、飯野地区と一緒に「第3ブロック」という地域連携区を構成しています。

一方、福祉や防災など日常生活面になると、全域8分割の組み合わせが変わって、隣の神戸地区、一の宮地区と共に「第3圏域」という地域連携区を構成します。この日は従って、神戸と一の宮の委員方との会議になりました。

議事は「鈴鹿第3圏域における災害時の地域連携について」でした。日頃、お互い顔見知りですので、この日は「発災直後の構え方」について意見交換をしました。

自助、共助、公助といいますが、発災直後は自助と互助・共助しかありません。これで3日間耐えねばなりません。公助は1週間たたないと動き出しは難しいようです。

地区の現況を踏まえ、河曲からは、サテライト型訓練と自主防災隊の連携強化に関する話をしました。たとえば1～2年で交代する自治会の委員方も少なく無いので、自主防災隊員さんと並んで動いてもらっておけば、意識喚呼ができ、家と顔を覚え、安否確認しやすくなり、発災の日から最寄りの避難場所で3日間を耐える、より強い自助体制がとれるのでは、との趣旨からです。

地区の秋季例大祭 日程

河田	川神社	10月12日	13:30
野辺	野辺神明神社	10月12日	11:30
竹野	八幡神社	10月11日	9:00
山辺	大井神社	10月12日	10:30
木田	鬼多神社	10月12日	9:30
国分	国分菅原神社	10月12日	13:00
十宮	八重垣神社	10月5日	10:00
須賀	阿自賀神社	10月5日	17:00

河曲地区地域づくり協議会広報紙

『広報かわの』第22号 令和7年9月20日 発行
発行責任者 地域づくり協議会事務局長 松林嘉熙
事務局 河曲公民館内「地域部屋」電059-390-1295